令和6年7月30日（火）10：00～11：30　北海道函館市　視察報告
於）はこだてみらい館・キッズプラザ
「中心市街地活性化事業（はこだてみらい館・キッズプラザ)」

【設置経緯】

前市長政策の一つである「駅前市有地での民間商業施設と子どもおもしろ館、キッズセンターなど公共施設合築による集客施設の建設」に基づき、施設整備の検討を開始。
その後、「函館市中心市街地活性化基本計画」において、低利用化・老朽化が著しい和光ビルを含む街区を一体的に再開発し、商業施設、集合住宅、子育て世代活動支援施設等を整備することにより、街区の機能更新、高度利用に併せ、中心市街地全体への波及効果を生み出すとともに、多くの利用者が見込まれる子育て世代活動支援施設や、街なか移住に寄与する集合住宅を整備するため、当該事業で建設する再開発ビル内に当該公共施設整備することとし、平成28年10月15日に「はこだてみらい館」および「はこだてキッズプラザ」を開設した。今年は開設後9年目を迎える。

【所感】

7月末にも関わらず函館市はたいへん涼しく、視察日の日中最高気温は24度。当該施設が入所する再開発ビル＝キラリス函館、1Fには空調設備がなく、玄関入口にスポットクーラー1基の設置で間に合っているようだ。立地としては函館駅隣接の広々としたロータリーから県道を挟んで東に位置しており、アクセス条件は申し分なし。キラリス函館の3Fにみらい館・4Fにキッズプラザが入所している。指定管理者の「はこだてみらいプロジェクト運営グループ」担当者にフロアを案内いただきながら視察を行った。
※指定管理料は両館合計で1億3945万1100円（令和5年度実績）

（1）はこだてみらい館

年間利用者数は5万～6万人の推移であり、年間使用料収入は平均約1千2百万円。道内外の小学生の修学旅行での来館も多く、また夏・冬の長期休みにおける子ども達の居場所としても一定の役割を果たしていると言える。プログラミング体験のみならず、大型ビジョンや360スタジオなどは観光都市函館の魅力を体感できるものとなっている。20時まで開館しているというのも利用者目線としてはたいへんありがたく思う。一方課題として、全世代に向けた施設として大人世代の来館促進をいかに進めていくかということを第一に挙げられていた。

（2）はこだてキッズプラザ

年間利用者数は10万人の推移であり、年間使用料収入は平均約1千8百万円で、令和5年実績ではコロナ禍以前の水準まで回復している。室内大型遊具を備えた子育て支援センターというイメージ。相談室や託児室を備えており、子育て家庭のさまざまな需要に応え得ることのできる施設として、好立地を生かした今後の展開も参考にしたい。

自由民主党周南　会派視察報告

視察日　　**令和６年７月31日（水）午後１:30～2:45**

視察地　　**北海道札幌市**

視察事項　**札幌市の人口減少対策について**

応　対　　**札幌市のまちづくり政策局　職員より説明を受けた。**
※札幌市議会議長や議会事務局の応対は無かった。

【説明】　第2期さっぽろ未来創生プランに取り組むなかで、人口減少の局面を迎えたことから、第3次さっぽろ未来創生プランを策定するにあたり、重要課題として取り組むこととなった。

札幌市は1920年市制施行時の約10万人から一貫して人口が増加しており、北海道内の他市町村からの人口流入等により現在１９７万人になる。

しかし、2023年社会増が自然減を下回り、人口減少の局面を迎えた。

２０２３年　社会増10,739人　自然増加数▲13,323人　人口増加数▲2,584人
合計特殊出生率　　1.02　　高い未婚率と夫婦間の出産数の減少
転出増加　　道内からは転入超過　道外へは転出超過　特に20代の転出超過

札幌市においては、合計特殊出生率が2022年に1.02に対し、希望出生率が2023年に1.44であることから市民の希望を叶えることで、合計特殊出生率を上げることが可能とし、そのためには、所得の向上策と子育て世代の家計負担の軽減などにより、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進め、社会全体で子育てを支援し、結婚や出産を望む市民の希望を実現していく。とした。

札幌市は20歳代の若年層では、就職などを契機として首都圏への転出超過が顕著となる。また、就職地にこだわらない学生の多くが北海道外企業を選んでいることがうかがえる。このことから、若者の北海道外流出の抑制と北海道外からの流入を促進するために、地域の活性化と誰もが働きやすさを感じられる社会を形成し、人をひきつけ、住み続けたくなる魅力を創出していく。とした。

札幌市における将来人口

現在197万人の人口が推計では、2040年には185万に、2060年には159万人、と40万人の減少が予想されるが、札幌市民の希望出生率1.44を2031年に叶え、国民の希望出生率1.8を2041年にクリアし、人口置換水準の2.07を2051年目指すと2060年には181万人の人口が想定される仮に10年遅れると2060年の人口は173万人が予想される。

一定程度の人口減少は避けれないが、最先端技術の活用や外国人などの多様な人材の活躍促進を図り、行政サービスを持続的に提供し、市民が満足する札幌市での暮らしに幸せを感じるための取り組みを推進する。

【コンパクトで人にやさしい快適なまち】

所　感

市町村の人口減少は国全体で起きていることから、その状況や取り組みの内容に大差は感じられない。

しかし、東京都をはじめ、大都市である札幌市でも人口の減少は行政サービスの持続を危惧しており、「コンパクトで快適なまちづくり」に取り組んでいくように感じる。

一方、人口減少と婚姻件数は大いに関係があり、札幌市においても　平成25年度の婚姻件数は10,914件であったが、そこから10年たった令和5年には3,007件の減少となったことから、さっぽろ圏域で18歳から39歳の未婚者を対象とした調査を行った。

結果、30.2%が「適当な相手にめぐり合えれば結婚したい」と回答し、また、行政が婚活支援を行なうことに対して、63.9％が肯定的な回答をしたことから、結婚を望む方々の理想とするライフプランの実現を支援するため　公的なオンライン婚活および伴走支援サービスを提供することとして、令和６年７月1日より支援センター開設し、会員の募集を始められる。

※【さっぽろ結婚支援センター】

大きな都市がこのような取り組みにチャレンジされることは、地方にとっては更なる人口の流出が懸念される。同時に、本市も考えるべきものと感じる。

【文責　有田力】

視察報告

道の駅石狩「アイロード厚田」　令和６年８月１日（(木)

概要

平成１７年１市２村の合併により、旧厚田村の住民で組織される「厚田区地域協議会」から複合施設構想の提案がされ、平成27年から３年間の事業期間を経て約14億円の事業費をかけて平成30年にオープンした。道の駅はあいろーどと呼ばれていた国道231号線沿いに開設されたことから「あいろーど厚田」とした。

施設は３階建て１Ｆは石狩の味覚と地域情報スロア、２Ｆは歴史と食のフロア、３Ｆは展望＆デッキで構成され特に３Ｆからの日本海を望む眺望については好評で、この道の駅の大きな特徴の一つである。

所感

開設当初は年間60万人を超える利用者が年々減少し、現在は年間約40万にまで落ち込んでいる。2年間のコロナ感染拡大の影響はあるものの、北海道特有の雪等による冬季に利用者の激減という地理的要因がある以上、目標値である年間40万人の利用者の確保にはかなりの努力を有するのではないかと思われる。すぐ近くに厚田港があり、ここで水産物販売があり、共存共栄をさらに進めて相乗効果を高めつつリピーターをいかに確保するか課題であろう。

報告者　自由民主党周南　青木義雄